

スタンダードチャータード PLC

中間経営ステートメント

2016年4月28日

(本資料は、ロンドンにて2016年4月26日付で発表された資料の日本語参考訳です。)

スタンダードチャータード PLC は、4月26日付で、2016年度第1四半期に関する中間経営ステートメント(IMS)を発表いたしました。

当行グループ最高経営責任者ビル・ウィンターズは、次のように述べています。

「当行グループは2016年度第1四半期、厳しい事業環境が続いたにもかかわらず、戦略的目標に向かって順調に前進を続けることができました。経営チームは、収益改善、コストの厳格管理、主要投資先の成長、精算予定ポートフォリオの早期売却の実現、盤石な資本基盤と流動性を堅持するために全面的に取り組んでいます」

業績サマリー

	2016年度 第1四半期 (100万米ドル)	2015年度 第4四半期 (100万米ドル)	2015年度 第1四半期 (100万米ドル)	前四半期比 増(減)%	前年同期比 増(減)%
営業収益	3,345	3,262	4,421	3	(24)
営業費用	(2,006)	(2,205)	(2,280)	9	12
規制関連コスト	(243)	(316)	(222)	23	(9)
銀行税(英国)	-	(440)	-	nm	nm
総営業費用	(2,249)	(2,961)	(2,502)	24	10
クレジットコスト・税引き前営業利益	1,096	301	1,919	264	(43)
顧客向け貸付金・その他信用リスク 引当金に伴うクレジットコスト	(471)	(1,126)	(476)	58	1
その他減損費用	(123)	(64)	2	(92)	nm
関連会社利益	37	13	48	185	(23)
特別要因調整後の税引き前営業利益	539	(876)	1,493	162	(64)
自己クレジット調整	89	(130)	(23)	nm	nm
再編関連コスト	(123)	(1,820)	-	nm	nm
デットバイバック	84	-	-	nm	nm
その他の項目 ¹	-	(1,225)	(26)	nm	nm
税引き前法定(損)益	589	(4,051)	1,444	115	(59)

¹その他の項目は、のれん償却コスト(2015年度第4四半期分3億6,200万米ドル)、評価法変更(2015年度第4四半期分8億6,300万米ドル)、事業売却損(2015年度第4四半期分2,600万米ドル)を含む。

2016年度第1四半期の事業環境は、2015年度第4四半期と同様、コモディティ(商品)価格の下落、中国市場の変動、新興国市場の低迷、金利動向の不透明感、その他の政策の変更により左右される展開となりました。そうした外部環境にもかかわらず、当行グループは、コストの厳格な管理、投資計画の実施、リスク偏向のさらなる是正、盤石な資本基盤と流動性に裏付けられたバランスシートの堅持という戦略的目標に向かって順調に前進しています。

第1四半期の利益は33億米ドルと、前年同期比24%減でしたが、前四半期比では概ね安定した水準でした。第1四半期利益の前年同期比減少分の3%は為替換算、2%が事業売却関連によるものでした。シンジケートローンについては、2015年度第4四半期に8,100万米ドルの評価損を計上しましたが、第1四半期には評価損は発生していません。

総営業費用は、前年同期比10%減の22億米ドルでしたが、為替差益分を除くと6%減となります。これには、2015年度末に向けて進めてきた再編策と事業売却が貢献しました。当行グループは、2016年度に総額10億米ドルのコスト削減目標を掲げており、その達成に向けて計画通りに進めています。既に発表済みですが、当行グループは、戦略目標に向けて投資規模を拡大する方針、その計画の一部を年度内に実施予定です。

第1四半期の規制関連コストは2億4,300万米ドルで、2015年度第1～第3四半期(1～9月期)並みと変わらず、2015年第4四半期比では下がりました。これは同年第4四半期には特別費用認識したためであり、予想通りの展開でした。当行グループは、コンプライアンス・監督体制のさらなる改善のために2016年度を通して必要な投資を継続する予定です。

クレジットコスト(減損費用)は4億7,100万米ドルで、前年同期比では概ね横ばいでしたが、前期比は著しく減少しました。法人部門・コマーシャルバンキング部門のクレジットコストは、前四半期比は下がりましたが、前年同期比では横ばいでした。リテールバンキング部門のクレジットコストについては、引受基準の強化と当行グループの香港、中国本土、韓国における消費者金融事業の売却を含むリスク管理施策が引き続きプラス効果をもたらしています。外部環境が厳しいことに変わりはありませんが、当行グループはポートフォリオの積極的な管理に引き続き努めてまいります。

その他のクレジットコストは1億2,300万米ドルでしたが、その多くは、債券・株式市場の変動の影響を受けたプリンシパルファイナンス事業の投資を反映しています。

以上の結果、当行グループは、2016年度第1四半期の税引き前営業利益として5億3,900万米ドルを計上しました。

2015年11月に発表した当行グループの再編計画の総費用については、2016年末までに約30億米ドルに上るといふ当初見通しの範囲で推移すると引き続き確信しています。2015年度を通して18億米ドルの特別費用を計上しましたが、2016年度第1四半期にさらに1億2,300万米ドルの特別費用が発生しました。そのうちの1億700万米ドルは精算予定ポートフォリオに伴うクレジットコスト引当金に関連するものでした。

こうした追加的な再編関連特別費用の一部は、発行済み(株式)20億米ドルの買い戻し時の公開買い付けが順調に進んだ結果得られた8,400万米ドルの利益、および8,900万米ドルの自己クレジット調整によって相殺されました。

以上の結果、当行グループは、2016年度第1四半期の税引き前営業利益として、5億8,900万米ドルを計上しました。

バランスシート主要項目

	2016年3月31日 (100万米ドル)	2015年12月31日 (100万米ドル)	増(減)
バランスシート			
顧客向け貸付金	257,763	261,403	(1%)
顧客預金	365,626	359,127	2%
資本			
普通株式等 Tier 1 比率(期末)	13.1%	12.6%	50bps
総自己資本比率(経過措置)	19.6%	19.5%	10bps
総リスクアセット	295,310	302,925	(3%)
レバレッジ率			
Tier 1 資本(期末)	40,741	40,149	1%
総レバレッジエクスポージャー(期末)	745,761	729,220	2%
レバレッジ率	5.5%	5.5%	-
平均エクスポージャー額	738,595		
平均レバレッジ率	5.5%		
カウンター・シクリカル・レバレッジ率バッファー	175		

上記データには流動化ポートフォリオを含みます。

第1四半期末の顧客向け貸付金は、顧客の借入需要の減少と市場全体での流動性の高まりにより、2015年12月31日比で1%の減少となりました。顧客預金は2015年度末比で2%増でした。

当行グループの普通株式等 Tier 1 (CET 1)比率は13.1%で、リスクアセットの3%減少、当期利益、小規模の為替差益などの影響を受け、2015年12月末時点より50ベースポイント(0.5%)増加しました。

全体的に見て、当行グループは引き続き多様性に富み、高い流動性と盤石な資本基盤に支えられています。

顧客セグメント別収益

	2016 年度 第 1 四半期 (100 万米ドル)	2015 年度 第 4 四半期 (100 万米ドル)	2015 年度 第 1 四半期 (100 万米ドル)	前四半期比 増(減) %	前年同期比 増(減) %
法人部門	1,847	1,794	2,515	3	(27)
コマーシャルバンキング部門	166	135	259	23	(36)
プライベートバンキング部門	118	122	152	(3)	(22)
リテールバンキング部門	1,214	1,211	1,495	-	(19)
総収益	3,345	3,262	4,421	3	(24)

自己クレジット調整、事業売却損益／売却予定事業評価損益は含みません。

当行グループの 2016 年第 1 四半期の部門別業績は 2015 年度通期決算と同じ形式で示しています。法人部門からコマーシャルバンキング部門に継承・統合された中小企業のセグメントからの収益を反映した新顧客セグメント別の業績は 2016 年度上半期決算発表(8 月)の前に開示する予定です。

法人部門の第 1 四半期収益は 18 億米ドルで、前年同期比 27%減でしたが、前期比は概ね横ばいと安定して推移しました。第 1 四半期収益に貢献したのは、年初の市場ボラティリティの高まりと、前四半期に発生した評価損の再発の回避によって、増収を記録したフィナンシャルマーケット事業でした。困難な市場環境は依然として続いており、当行グループの進出先すべてにおいて顧客取引、資産需要、取引量に影響を及ぼしています。

コマーシャルバンキング部門の収益は 1 億 6,600 万米ドルで、前年同期比は 36%減でしたが、前期比では 23%増でした。当行グループのリスク軽減への取り組みは概ね完了しており、業務基盤強化も順調に進行中です。

プライベートバンキング部門の収益は 1 億 1,800 万米ドルで、前年同期比 22%減、前期比 3%減でした。厳しい市場環境は、引き続き投資家心理のマイナス要因となり、なかでもウェルスマネジメントおよび株式関連商品が影響を受けました。しかしながら、プライベートバンキング部門へのニューマネーの流れは引き続き順調に伸びており、新純増分は 2015 年度通期の 3 億米ドルに対して、2016 年度第 1 四半期には 5 億米ドルに達しました。

リテールバンキング部門の収益は 12 億米ドルで、前年同期比は 19%減、前期比は横ばいでした。事業撤退・為替要因を除いた本来業務による収益は、ウェルスマネジメント事業、クレジットカード事業、プライベートローン事業の減収により、前年同期比が 10%減となります。減少の主因は、当行グループは、現在のリテールクライアント部門収益の 37%を占める優先顧客向け事業に引き続き力を入れています。

商品別営業収益

	2016 年度 第 1 四半期 (100 万米ドル)	2015 年度 第 4 四半期 (100 万米ドル)	2015 年度 第 1 四半期 (100 万米ドル)	前四半期比 増(減)%	前年同期比 増(減)%
トランザクションバンキング	729	754	886	(3)	(18)
トレード	318	334	439	(5)	(28)
キャッシュマネージメント&カस्टディ	411	420	447	(2)	(8)
フィナンシャルマーケット	733	566	904	30	(19)
コーポレートファイナンス	446	501	561	(11)	(20)
ウェルスマネジメント	364	378	456	(4)	(20)
リテール商品	927	939	1,168	(1)	(21)
カード・個人ローン・無担保ローン	409	429	564	(5)	(27)
預金	301	282	301	7	-
住宅ローン・自動車ローン	197	204	216	(3)	(9)
その他のリテール商品	20	24	87	(17)	(77)
その他	276	209	414	32	(33)
ALM	111	55	175	102	(37)
レンディング・ポートフォリオ管理(LPM)	165	154	239	7	(31)
プリンシパルファイナンス	(130)	(85)	32	(53)	nm
総営業利益		3,262	4,421	3	(24)

自己クレジット調整、事業売却損益／売却予定事業評価損益は含みません。

トランザクションバンキング事業の収益は7億2,900万米ドルで、前年同期比18%減、前期比3%でした。トレード収益は、トレードファイナンスの世界的な需要減と、低水準が続く利幅が影響し、前期比5%減でした。キャッシュマネジメント&カストディは引き続き堅調で、前期比の減少幅は2%にとどまりました。優良顧客預金獲得への取り組みを強化した結果、複数市場対応キャッシュマネジメントの運用委託を相次いで獲得することができました。キャッシュマネジメントの利幅は前年同期比、前期比のいずれとも改善しました。

フィナンシャルマーケット事業の収益は7億3,300万米ドルで、前年同期比で19%減でしたが、前期比は30%増となりました。2015年度第1四半期に発生したキャピタルマーケットのシンジケートローンの評価損の再発を回避できたことが当期収益に貢献しました。評価益を除くと、フィナンシャルマーケット事業の収益は、とりわけ年初の市場ボラティリティを反映して為替と金利の収益が伸びたことを受け、前期比で13%増となりました。

コーポレートファイナンス事業の第1四半期収益は4億4,600万米ドルで、前年同期比20%減、前期比11%減となりました。市場流動性が引き続き高水準で推移していることが、繰上返済の増加と借換価格の低下につながっています。

ウェルスマネジメント事業の収益は3億6,400万米ドルで、前年同期比20%減、前期比4%減でした。投資家センチメントは、市場の乱高下、とりわけ年初に中国の株式市場と人民元相場が荒れたことから、冷え込みました。

リテール事業の第1四半期収益は9億2,700万米ドルで、前年同期比21%減、前期比1%減でした。減少の主因は、無担保ポートフォリオの減収でした。預金利鞘は、調達を低コスト資金中心に絞り込んだことが奏功して、前年同期比で改善が見られました。住宅ローン・自動車ローンの利鞘は前期比で概ね横ばいでした。

ALM収益は1億1,100万米ドルで、金利収益が減少したために前年同期比で37%減となりましたが、前期比はリスク軽減効果で102%増を記録しました。

プリンシパルファイナンス事業は1億3,000万米ドルの損失を計上しました。当行グループの進出先の債券・株式市場の変動、売却精算のタイミングの影響で、評価損が発生したことが原因でした。

資産の質

	2016年度第1四半期			2015年度通期		
	継続事業 (100万米ドル)	清算事業 (100万米ドル)	総額 (100万米ドル)	継続事業 (100万米ドル)	清算事業 (100万米ドル)	総額 (100万米ドル)
減損費用						
貸付金クレジットコスト	471	-	471	2,381	1,627	4,008
再編関連減損特別費用	-	107	107	-	968	968
貸付金クレジットコスト総額	471	107	578	2,381	2,595	4,976
顧客向け貸付金						
顧客向け貸付金総額	257,030	7,515	264,545	260,143	7,940	268,083
顧客向け貸付金純額	253,657	4,106	257,763	257,007	4,396	261,403
クレジットの質						
不良貸付総額	5,672	7,306	12,978	5,247	7,512	12,759
個別減損引当金	(2,827)	(3,409)	(6,236)	(2,584)	(3,544)	(6,128)
不良貸付純額	2,845	3,897	6,742	2,663	3,968	6,631
不良貸付貸倒引当率 ²	61%	47%	53%	62%	47%	53%
不良貸付貸倒引当率(担保考慮後) ¹	71%	64%	67%	71%	64%	67%
リスクアセット(10億米ドル)	276	19	295	283	20	303

¹ ポートフォリオの減損引当金を含みません。

² ポートフォリオの減損引当金を含みます。

精算予定ポートフォリオの売却交渉を進めています。第1四半期に新たな再編関連特別費用として1億700万米ドルを計上しました。交渉は複雑なため合意までに時間がかかると想定していますが、これらポートフォリオの案件を今後1年から1年半で売却する方針に変わりはありません。

現行事業が抱える不良貸付総額は、前期末比で4億2,500万米ドル増となりましたが、そのほとんどはコモディティ価格下落の影響を受けた少数のコモディティ関連エクスポージャーによるものでした。コモディティポートフォリオの総額は現在およそ370億米ドルに上りますが、前年同期比では8%減少しています。

当行グループの不良貸付貸倒引当率は、担保分を除くと53%、担保分を加えると67%と、安定して推移しています。現行事業の関連する不良貸付貸倒引当率は、担保分を除くと61%、担保分を加えると71%となります。

まとめと見通し

2016年度第1四半期の業績は、想定に沿ったものとなりました。当行グループは、収益改善・コストの厳格管理に引き続き全面的に取り組んでいます。バランスシートは引き続き盤石で、流動性も高く、ますます多様性に富むものとなりました。

厳しい市場環境の継続が予想されることに加え、当行グループの経営戦略の早期実施を受けて、2016年度業績は引き続き抑制された水準で推移する見通しです。顧客取引に新たな成長の可能性があるとこの当行グループの信念に変わりはなく、その競争優位性の拡充に向けた投資を続けています。当行グループのファンダメンタルな価値は堅持されており、将来的に高いリターンを持続的に実現できる組織づくりを目指す経営戦略を着実に実行してまいります。

詳細につきましては、下記の担当者へご連絡ください。

James Hopkinson, Head of Investor Relations	+44 (0)20 7885 7151
Sarah Lindgreen, Head of Media Relations	+44 (0)20 7885 8764

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

広報部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9312

CA.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性・実現性を保証するものではありません。また、本資料には、「予測」「目標」「見通し」「傾向」「計画」「目標」「評価」「意見」「可能性」他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績・計画・目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼性の高い過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものではないことをご確認ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。